

研究課題 (テーマ)		前立腺がん患者の治療選択場面における意思決定プロセスの解明		
研究者	所属学科等	職	氏名	
代表者	看護学科 老年看護学講座	講師	川口 寛介	
分担者	看護学科 老年看護学講座	助教	米山 真理	
研究結果の概要				
<p>【背景・目的】</p> <p>最新の癌統計によると男性では前立腺がん罹患数が最多であり、前立腺がん患者の多くが高齢である。近年、ロボット支援手術や重粒子線治療といった最先端治療が保険適用され急速に普及してきている。医療の進歩に伴い治療法が増える反面、治療選択は複雑になる。更に、高齢がん患者の場合、病期に加え様々な要因を加味した上で治療選択を行うため、支援の充実がより一層求められる。特に、限局性前立腺がんの治療選択肢は多岐にわたり、いずれの治療法も予後が良好である。しかし、治療に伴い排尿機能障害や性機能障害などの合併症が生じ、QOLに長期的な影響を及ぼす。そのため、治療選択はその後の人生を左右する非常に重要な場面であり、患者が主体的に治療選択に参加し、納得した意思決定が求められる。</p> <p>本研究の目的は、前立腺がん患者の治療選択における意思決定プロセスを明らかにすることである。本研究により、患者が治療選択において何を重要視しているのか、治療法を決定するまでのより具体的な過程を理解することができる。本研究から得られた知見により、患者の視点から意思決定支援を行い、患者がより主体的に治療選択に参加することができる考える。</p> <p>【方法】</p> <p>本研究は、DIPEX-Japan「前立腺がんの語り」データベースを用いた二次分析である。「前立腺がんの語り」内容について質的帰納的分析を行い、治療選択における意思決定プロセスを明らかにする。さらに、治療法ごとに意思決定プロセスの特徴をまとめる。</p> <p>DIPEX-Japanの利用許可、富山県立大学看護学部倫理審査委員会の承認を得て実施した。</p> <p>【結果】</p> <p>「前立腺がんの語り」内容から限局性および局所進行性と判断された者を分析対象とし、診断時に転移のあった者は分析から除外した。ロボット支援手術や重粒子線治療といった最新治療を含む、手術療法、放射線療法、ホルモン療法、監視療法、局所療法を受けた者の語りを分析した。</p>				
今後の展開				
<p>今後、分析を継続し、治療選択場面における意思決定プロセスを記述するとともに、治療前後での治療選択に対する内容比較や各種治療法による違いを明らかにしていく。そして、得られた知見をもとに実際の臨床場面で応用できるよう検討を重ねていく。本研究の成果については、学会発表および論文投稿を予定している。</p>				